

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 10月9日(水)

会 場: 川地コミュニティセンター

参加者数: 48人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>・地域資源について、自分たちが地域資源について考えると、地域の特徴ある資源ということをもっと頭に浮かべる。しかし先日、人材及び農産物も資源であると説明されたが、自分たちが認識している部分は少ないと感じる。行政側は、川地地区で特徴的なことは何と考えているのか。確認させてもらいたい。</p> <p>・資源を認知したとして、今後どのように活用していくのか行政と共に考えなければいけない。部長の発言により、行政は観光資源の取組が最も重要であると受け取ったが、川地地区で発掘できるような資源があると考えているか。</p>	<p>地域資源として考えられるものを例に挙げると、自然(カタクリの里、鬼ヶ城、江の川の恵)文化・伝統芸能(志和地子ども田楽、川地音頭、川立神楽、志和地窯)などがある。また、次世代を担う子どもたち、経験豊富な高齢者も大きな地域資源と考えられる。例に挙げた資源を大切にしている取組や活動を、改めて紹介していただきたい。</p>	
<p>地域資源を今あるものから見つけるという発想は、大変重要であるが、他自治体が行っている取組との比較をして、客観的な視点を持つことも重要である。物産に関しては、作るという視点が重要である。今ある物以上に、より良い物にするには、どのような取組が必要か。</p>	<p>今ある資源をさらに磨いていくことも重要であり、また客観的な視点を持って新たなものを作り、磨いていくことも本当に重要であると思っている。</p>	
<p>現在、小学生が「ガラスの足」と言われ、まともに立つことができないということが問題となっている。小学6年生を対象に調査したところ、すでに外反母趾予備軍やべた足くき足の児童がいるという結果が出た。子どもの健康を守らなければいけないと考えており、以前から行政に要望を出しているが聞き入れてもらえなかった。予算がかかるのは理解しているが、検討していただきたい。</p>	<p>・現在、三次市及び広島県全体において「体力運動能力調査」を継続歴に実施している。今の子どもたちの握力・投げる力の低下や、短距離走の力が弱くなってきていることなどは「ガラスの足」と呼ばれることに関連しているかもしれない。また、足に合った正しい靴・シューズを履くことなどが重要だと考えられる。学校でも、子どもたちの実態に合わせた運動能力を高めて行く取組も行っている。また、併せて、食生活も体の変調にもつながるため、体に良い食べ物や食事の重要性についても学校の教科内で指導を行っている。いただいた意見を含めて、三次市内各学校の児童生徒に応じた体力運動能力向上や食育への取組を引き続き行っていきたい。</p> <p>・保育所の子どもたちについて、平成29年度に市内保育施設の子どもたちの体の発達・集中力などどのような問題があるかというアンケートを実施した。アンケート結果としては、「体幹バランス・姿勢が悪い」「集中して物事が出来ない」という問題が明らかになった。改善策として、保育所で取り組めることを検討し、昨年度より「リズムあそび」を取り入れた。ピアノ伴奏に合わせ、子どもたちが体を揺らしたり、高這いや方向転換をしたり、様々な動きをするものである。1年実施した結果として、体幹バランスの面では、姿勢が良くなり転倒しにくくなったなど様々な効果が表れた。継続してこの取組を行っていく予定である。</p>	

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 10月9日(水)

会 場: 川地コミュニティセンター

参加者数: 48人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>鬼ヶ城については、志和地自治会により、6年かけて左岸側を整備し、駐車場及び遊歩道を作り上げてきた。右岸側には石や木が多く、自治会の力のみでは遊歩道に整備することが出来ず、諦めたという経緯がある。一度、現地調査をしていただきたい。</p>		
<p>鬼ヶ城の件に関して、以前より要望をしていたが、旧志和地小学校跡地を、鬼ヶ城と結び付けて観光資源として利用・計画していただきたい。</p>	<p>旧志和地小学校の活用について、現在、市としては地元住民の意見を聞かせてもらっている。鬼ヶ城を利用した旧志和地小学校の利用について、地元住民から意見をいただいて、市の部局へつないでいきたい。</p>	
<p>藤根原川東市道について、台風到達後、道路に枯れ木が倒れており、朝早く地域住民が撤去作業をした。他にも、今にも倒れそうな枯れ木がある。交通事故を防ぐためにも、早急に市で撤去作業を行っていただきたい。</p>	<p>路線が多いため、現地調査をさせていただきたい。</p>	

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:10月9日(水)

会場:川地コミュニティセンター

参加者数:48人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>三次市人口増加のために、様々な施策に取り組んでいるが、若者の定住がベースであると感じる。しかし、高齢者にも優しいまちづくりに関しても力を入れていただきたい。ごみの分別についても細かな指定があるため、高齢者にとってはたいへん難しいと感じる。若者の定住促進だけでなく、退職後、自給自足で生活できるようなまちづくりを進め、高齢者にやさしい施策をつくっていただきたい。若者のみではなく、高齢者も空き家バンクや農地が利用できる地域に変えていただきたい。</p>	<p>・少子高齢社会、核家族化が進む中で、高齢者にやさしいまちづくりに関して、非常に大きな問題であると認識しており、いろいろな施策に取り組んでいる。元気で自立した生活ができることが一番重要であると感じている。三次市としては地域包括ケアシステムを進めており、民生委員や消防・郵便局などの協力を得て、見守り活動を行っている。根本となるのは地域の常会単位で見守りや普段の声掛けであり、災害時など地域の情報共有が必要な時に重要となってくる。市としては、地域で支える体制の支援づくりを進めている。現在も、保健師を地区担当に付け、相談を受ける体制を作り、地域包括支援センターにも高齢者の相談受付場所の設置もしており、より良い地域づくりを進めていきたい。</p> <p>・自分自身が掲げているまちづくりは、決して若者のみをターゲットにした定住対策ではない。高齢者から子どもたちが共存共栄で暮らしていける三次市を想像している。高齢者福祉に対しても、現在、市が抱える課題と向き合い、様々な事業を行っている。現在は、課題に対する解決策をはっきりと見つけ出すことが出来ていない施策や分野もあると思う。個人の意見としては、これからそれぞれの地域づくりや解決策を引き続き模索していきたい。市民の方々の率直な意見を引き続き聞かせていただきたい。</p> <p>・ごみの分別について、地域全体で高齢者のゴミの分別の補助をしていることに関して非常に感謝している。現在、三次市では高齢者や障害者など、自分自身で集積所へゴミを持ち込むことが出来ない方を対象に、自宅へゴミの回収に伺う「ふれあい収集」を行っている。このような特殊な事情がある方については、市に連絡していただき、訪問して話をさせていただきたい。</p> <p>現在、ふれあい収集を利用している人数は不明だが、後日、回答させていただきたい。収集の要件は、高齢者は、寝たきりや介護を要する場合など自由な行動が難しい方が対象となる。また、直接、お話を聞かせていただき判断したい。</p>	
<p>市のハザードマップについて、市内全域を見ると、洪水や土砂災害に関して記載されているが、川地地区に関しては洪水のみであり、土砂災害の危険性はないように表記されている。詳しく説明していただきたい。</p>	<p>川地地区のハザードマップに関して、現在、洪水のみの表記であり、土砂災害については広島県が調査中である。調査自体は終了しており、今年度中に公表される予定である。公表された際は、速やかにハザードマップに記載する予定である。加えて、板木川についても、広島県が浸水想定を進めており、今年度中に浸水想定が公表される予定である。公表後は、速やかにハザードマップに記載する予定である。</p>	

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:10月9日(水)

会 場:川地コミュニティセンター

参加者数:48人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>病院再編について、三次市に関しては指定されていなかったが、今後病院再編に指定された場合、市としてはどのような対応をするのか。</p>	<p>病院の統廃合に関する報道について、これは県が「地域医療構想」を定めるもので、三次市と庄原市は備北医療圏域となっている。地域医療構想を策定する背景として、人口減少が影響されており、人口10万人あたりに、将来どの程度病床数が必要であるか計画するものである。強制力はなく計画するのみであったが、国の方針として公表する形となった。現在のところ三次中央病院は、県北の中核病院であり災害時に拠点病院の機能性を持ち合わせているため、病床数の減少及び病院の統廃合はない。庄原赤十字病院に関しても、経営問題に関わることであるため、すぐに削減するのではなく実情に合わせた運営をしていくと考えている。市長がマニフェストで医療体制の整備を掲げているが、人口減少によって医療機関にも影響があるが、引き続き医療体制の整備を行っていく方針である。</p>	
<p>・福岡市長が説明された計画性のあるまちづくりについて、公共施設を再編整理(統廃合)するという方針について賛成である。コンパクトな三次市を作っていただきたい。そのためには、20年後を見越して有効な土地活用をしていただき、方向性を示してほしい。若者の定住のしやすさにつながると思う。</p> <p>・三次駅付近に飲食店がない。三次市はまちづくりに関して、飲食店など分散し、失敗していると感じる。もののけミュージアムの場所に関しても、三次市の拠点から離れており、2年目の来訪者数に反映してくると思う。さらに三次駅前の緑化が乏しく感じ、ほかの自治体も同様であるが特徴あるまちづくりがなされていない。足を止めて休憩したいと思えるような、駅周辺のまちづくりをしていただきたい。行政の職員が出張した際に、ほかの自治体のまちづくりを比較し、三次市のまちづくりに反映するべきである。</p>	<p>コンパクトシティについて様々なご意見や要望はあることは把握している。一時はコンパクトシティ構想に関して、様々な地域において取り組まれていたが、すべての地域においてコンパクトシティ化で繁栄するわけではない。それぞれの地域に応じた取り組み方法があると考えている。例を挙げると、限界集落と言われている作木町では、作木町自治連合会を一般社団法人化し、作木町の元気が出るまちづくりを行っている。作木町のように、50年後を見据えた超高齢化社会を迎えるモデルになりたいという意気込みを持つ地域もある。地域住民の意見や目的を尊重しつつ、今後のまちづくりを進めていかなければいけないと考えている。しかし、市街地に目を向けると都市計画が計画的に実行されていないという、厳しい状況である。今回いただいた意見を踏まえて今後のまちづくりに反映させていきたい。</p>	

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 10月9日(水)

会場: 川地コミュニティセンター

参加者数: 48人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>・学校給食について、現在、川地保育所・小学校は食育を含めた地産地消に取り組んでおり、保護者の方々からの反響も良い。川地地区は理想的な給食の体制であり、Uターン定住してよかったと思える地域である。地域資源を生かしたまちづくりは、川地地区においても非常に重要であり、三次市全体が魅力あるまちであるには、「食」の面を重要視するべきであると考えている。「食」は三次の良さであり、田舎の良さである。Uターン者や移住者が求めていることは、地域の良さである。川地の給食の体制は、食育の理想像である。給食センターについては、コンパクトシティと捉えるのであれば給食センターを市内に1カ所設ければ効率的であるが、効率化がすべてではないと思う。地域ごとに、特色ある食育が出来る給食を維持することは、三次市にとって素晴らしい財産になると思う。</p> <p>・新給食調理場の検討委員会の人選について、すでに三次市が決定していると聞いているが、公募して様々な意見を持つ保護者を委員に加えていただきたい。公募してもらわないと、自分の知らないところで委員会が協議された意見については納得することが出来ない。</p>	<p>・平成30年度に再編案を保護者説明会でもさせていただいたが、現在、給食調理場については老朽化が進み、耐震性がない建物や、衛生・安全管理に課題がある等、存続していくには難しいと考えている。そのため安全管理が出来る新たな施設の再編案を提示している状況である。新給食調理場は必要であるため、整備に関する基本的な計画の意見をまとめるために、検討委員会を立ち上げ、近日中に会議を始める段階である。保育所・小学校・中学校の保護者の方、生産者、JA三次の職員にも委員会に入ってもらい、意見交換の場づくりを検討している。今後、新調理場をどのように進めていくのか、食数の規模、引き続き生産者から食材提供の集荷の仕組みについての方向性等、様々な意見を伺いたいと考えている。</p> <p>・それぞれの地域において特色のある学校給食や、顔の見える安心安全な学校給食体制に取り組まれている状況である。行政側としては、厳しい決断を迫られており、給食を持続可能なものにするために、将来を見通して、学校給食の問題について結論を出さなければいけない。地産地消を取り入れた給食は、地域資源であり否定するものではない。それぞれの地域の方々の意見や学校給食の在り方について、総合的に意見を聞かせていただき、最善策を見つけるために結論を出していきたい。</p> <p>・市全体の多方面の意見をいただく場合に公募という形式をとっている。行政チェックを行う市民会議や、市総合計画策定の際等に公募をしているが、給食調理場の整備となると範囲が限られた中での協議となるため、関係者の方に入ってもらい、どのように考えている。保護者の方の委員については市PTA連合会役員と相談し、委員の選出を依頼している状況である。</p>	

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 10月9日(水)

会場: 川地コミュニティセンター

参加者数: 48人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>回答を受けて、重要度が低いと捉えられていると感じたが、予算が厳しいのは当然だと思うが、「食」に関しては地域資源の根本となるものであるため、重要度が高い問題であることを再認識していただきたい。</p>	<p>いただいた意見を真摯に受け止めて、取り組ませていただく。決して給食調理場の件に関して軽視をしているわけではない。行政側としても経費を安く済ませるような協議をしているわけではなく、地域の方々の思いや意見をしっかりと聞き、把握した上で、総合的判断をさせていただきたいという考えである。</p>	
<p>広報紙に掲載されている市長コラム内の「本物を体感する大切さ」を読み、共感したため、市政懇談会に参加した。今回、自分の思いをメモしたものを持参したので一読していただきたい。</p>		
<p>・働き方改革が問われる中で市の部局は遅くまで残業している。子育て世代の若手職員に関して、率先して男性の育休(時間休等)の制度を導入していただきたい。市が率先して導入することで、民間企業にも導入されるきっかけになると考えている。</p>	<p>・ワークライフバランスの取組に関して、市としても重要であると感じている。特定事業主行動計画を立て、育休取得促進に取り組んでおり、「お父さんお母さん休暇」制度も設けている。今後も働き方改革に取り組んでいきたいと考えている。</p> <p>・現在、働き方改革により教員にも19時には帰宅するよう推奨している。保護者の方へ、教員の勤務時間以降に学校への電話連絡を緊急時以外かけないよう依頼したことも、早く帰れる状況に繋がってきている。併せて、教育委員会の子育て世代の職員に対しても、早く帰れる環境になってきており、男女共同参画社会づくりの中で重要になって来ている。「お父さんお母さん休暇」についても三次市では取りやすい環境であるので併せて広報していきたい。</p>	
<p>防災の件に関して、危機管理課のみではなく、地域包括支援センター、自主防災組織、民事協議会などと共に、高齢者や障害者等の要支援者に対して、支援員や民生委員を通し、個別訪問の際に防災啓発活動を行ってほしい。防災意識向上にも繋がると考える。</p>	<p>ご意見いただいた通り、防災は危機管理課のみではなく、地域の方々の自主防災により成り立っており、様々な地域の方の防災の力をどのように集めるかが重要になってきている。特に、要支援者に対する防災については、全国的にも良い事例が見つかっていないという現状である。現在、三次市としてはさらに問題意識を高め、庁内でも勉強会を開催し、様々な事例を参考にして災害時の対応について検討している。防災に対する良い案があれば、自主防災組織・民生委員・ケアマネージャーの方々に声をかけさせていただき、共に検討していきたい。</p>	
<p>子どもたちの健康について、以前、志和地小学校廃校に伴い、市へバス通学の要望を出していたが、子どもたちにもある程度、徒歩通学させることにより体力向上を図ることも重要ではないかと感じている。</p>	<p>長距離を徒歩通学する児童生徒は脚力が付くというメリットがある。バス通学の児童生徒についても、集合場所まで徒歩で通学する場合もある。通学路については、学校及び保護者を含めて協議するものであり、いただいた意見を参考にし、検討していきたい。</p>	

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:10月9日(水)

会 場:川地コミュニティセンター

参加者数:48人

参加者の発言	市の発言	備考
常会の統廃合について、現在、機能不全の常会が増加し、困っている。常会の統廃合に対する補助事業や市の対応について回答いただきたい。	市で常会の統廃合を補助金等を出して進めることはない。常会の加入人数減少により、常会の活動が厳しい現状であると思うが、常会のあり方は各地域で考えていただくため、市で押し付けるという事はない。	